

【参議院災害対策委】足立敏之議員「緊急対策は継続・計画的実施を」

足立敏之参議院議員（自民党）は28日の参院災害対策特別委員会で質問に立ち、本年度が最終年度となる「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」について、7月の豪雨災害を踏まえて「引き続き継続して計画的に実施する必要があると強く感じる」と訴えた。内閣府の武田良太防災担当大臣は「ここまで災害が激甚化・多発化する中で、年々国土強靱化政策の重要性は増している。まずは3か年緊急対策の取り組みを進めていくことが大事だい」と説明した。

政府が17日に閣議決定した骨太の方針では、3か年緊急対策後も中長期的な視点に立って計画的に取り組むため、国土強靱化基本計画に基づき必要・十分な予算を確保し、災害に屈しない国土づくりを進める方針が盛り込まれた。武田大臣は全国の知事会、市長会、町村会からも強い要望を受けているため「ますます重要な政策になっていくと思う。今後もしっかりと取り組んでまいりたい」と答弁。足立議員は「できれば5か年くらいの計画を立てて進めていただきたい」と求めた。

また7月の豪雨で甚大な被害が発生した熊本県の球磨川について「今後さらに地球温暖化などで水害が激甚化することを考えると、被害の大きかった人吉市などの球磨川沿いのまちの再生と併せて、川辺川ダムを含めて抜本的な治水対策をあらためて考える必要がある」と強調した。国土交通省水管理・国土保全局の五道仁実局長は、昨年の東日本台風で被災した7つの水系では緊急治水対策プロジェクトが進んでいるとした上で「球磨川においても甚大な被害を受けた沿川まちの再生ができるよう、7つの水系と同様に上流・下流、本川・支川の流域全体でハード・ソフト一体となって取り組む抜本的な治水対策を国、県、市町村と連携して検討してまいりたい」との考えを示した。



抜本的な治水対策の必要性を訴える足立議員